

令和4年度 学校評価結果

千葉県立松戸六実高等学校

領域	自己評価の結果(達成状況、結果の分析)	改善方策(自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ
<p>学校経営</p>	<p>1 スクール・ポリシーの作成と公表 ①スクール・ポリシーの作成 令和3年度より、生徒、保護者、開かれた学校づくり委員会からの意見を参考にし、スクール・ポリシーを作成し、完成させた。 ②スクール・ポリシーの公表 10月に学校ホームページにて公表した。 2 保護者や地域と連携した学校づくりの推進 ① 情報発信の充実 ホームページの更新については、12月末までに150回であり、昨年のペースを下回っているが、部活動の活動状況や、六実トピックス等、内容は充実している。中学校からも、ホームページが随時更新されていることに対し好評を得ている。 ② 開かれた学校づくり委員会主催のミニ集会で本校の課題について改善策を協議 ミニ集会では、「本校に期待すること」をテーマに本校の今後の課題について、また、松戸六実高校の強みや魅力を地域にどうアピールしていくか意見交換を行った。 3 コロナ禍における学校教育活動の工夫と継続 ①コロナ対策委員を中心に県のガイドラインに沿った感染予防対策を徹底し、文化祭、修学旅行等、昨年度実施できなかった学校行事を行うことができた。他の学校行事についても、コロナ前の状況に近い計画での実施ができた。 4 持続可能な学校教育活動のための働き方改革推進に取り組む。 ① 出勤時間の記録により、自身の勤務時間の実態を可視化することにより勤務時間に対する意識の向上を促した。また、部活動ガイドラインに沿った運営ができていくかどうかを、部活動の実施計画・実績の報告により把握した。意識改革が進められていると解答した職員が昨年度の41.5%から42.4%とわずかだが上昇している。</p>	<p>1 ①② スクール・ポリシーをどのように学校教育計画に反映させているか検証する。 2 ①引き続き、最新の情報提供を推進する。部活動についても、情報発信している部活動が偏らないよう調整する。 2 ②ミニ集会において出された本校の課題について、職員会議や分掌会議で改善策が協議できるよう、課題の整理、調整を行う。 3 ①来年度も県のガイドラインに沿った感染予防対策を徹底した上で、計画された学校行事がすべて安全に実施できるよう工夫する。 4 ①勤務時間に関する意識改革は進められてきているが、50%を下回っている状況である。業務の見直しや精選、クラウドを活用した業務改善を推進することにより、働き方改革を推進する。</p>	<p>1 ①②内容が素晴らしい。公表だけではなく、その後の保護者や生徒、地域からの反応も大事。せっかく作ったスクール・ポリシーであるので、皆で共有し、教育活動に活かしてほしい。 2 ①学校ホームページを見るだけで、松戸六実高校がどのような学校か想像がつく。現在は松戸六実高校らしいトピックスが随時更新されていて、とても良い。これからも続けて欲しい。 3 ①コロナ禍でいろいろな工夫をして学校行事を計画通りに実施できたことは、生徒にとってとても喜ばしいことである。先生方のご苦労の賜物。 4 ①教員の働き方改革を推し進めるのは喫緊の課題ではあるが、実施には難しい。部活動の外部指導者の導入等、高校でも実現するようになると良い。</p>	<p>1 ①②スクール・ポリシーが反映された学校教育計画になるよう、職員全体で確実に共有する。反映状況を繰り返し検証する。 2 ①学校ホームページへのアップが更に促進されるよう、教職員全員がホームページの更新方法を理解できるよう工夫する必要がある。 3 ①アフターコロナを見据えながら、今後も安全に学校行事を実施する。 4 ①今後も、教員の働き方改革を推し進める。教員一人ひとりの意識改革、業務の精選、学校全体の業務の見直し、ICTの活用等、積極的に取り組む。</p>
<p>学習指導</p>	<p>1 生徒の学びに向かう姿勢を改善し、学力の向上を図る。 ① スタディサプリの活用の促進 リクルート社の学習支援アプリ「スタディサプリ」を昨年度から導入している。授業内での活用、コロナによる出席停止等の生徒への課題としての配信、3年生向け面接指導の事前課題として、面接に関する動画を配信した。また、受験を控えている3年生を中心に活用している生徒もおり、上手に使うことで、低コストで受験勉強に取り組むことができていく。 2 職員の授業力向上を目指した取組を通じ生徒の基礎学力及びの学びに向かう姿勢の改善 ① 全職員による相互授業参観 悉皆職員による授業研究(7回)の他に、11月に相互授業参観期間を設けた。 ② 生徒および保護者の授業満足度 生徒の授業満足度は、昨年度の86.9%から85.3%と低下している。また、保護者の授業満足度も73.4%から71.8%に低下している。 ③ 学びの基礎診断テストによる客観的な学力の把握と共有 国語、英語、数学で実施。客観的な学力を把握した。生徒に還元するとともに、職員間で共有し学力向上の一助とした。 また、1・2年生の実力診断テストで「自己振り返りノート」を活用し、生徒各々が確実にテストを見直す機会を設けた。</p>	<p>1 ①生徒のスマートフォンと校内のWi-Fiの接続作業を進めている。「スタディサプリ」のより有効な活用と「一人一台パソコン」に向けた環境整備を促進する。 2 ①ICTを活用した授業研究等、若手教員研修チームによる研究授業や他校の授業参観を推進する。次年度も実践的な研修の機会として相互授業参観期間を設け、授業力の向上を図る。 2 ②生徒、保護者ともに授業への満足度が低下している。次年度は双方の満足度が80%を超えるよう、低下の原因の分析、授業内容の見直しに取り組む。 2 ③生徒の学力をはかる資料を有効活用し、生徒の学力を的確に把握する。その上で、基礎学力の定着に向けて方策を検討し、全校体制で改善に取り組む。テストを受けたままで終わらせるのではなく、振り返りの時間を活用させる。</p>	<p>1 ①スタディサプリの活用が習慣化すると良い。今後も、PCやスタディサプリの活用を推し進めてほしい。 2 ①来年度入学生から1人1台端末となる。先生方にもICTを活用した授業を研究してもらい、有効活用できるようにお願いしたい。 2 ①ICTの充実が加速する時代。多忙や苦手だからとは通じない。少しずつでも授業に取り入れられるよう研鑽してほしい。</p>	<p>1 ①スタディサプリは令和5年度も継続するため、今年度よりも有効活用できるよう、活用状況を検証する。 1 ①学力向上委員会を核とし、ICTを活用した授業研究等を充実し、教職員全員が何らかの形でICTを活用した授業を実施できるよう環境を整える。</p>

生徒指導 (教育相談)	<p>1 組織的な生徒指導体制、教育相談体制、特別支援教育推進体制を構築</p> <p>① 学年所属の教育相談・特別支援コーディネーターを中心に生徒の情報を共有教育相談情報交換会を年4回実施。全職員での情報共有を図った。また、的確な生徒支援に関する知識と技術を身につけるため、教育相談職員研修会を実施した。不登校等による転学者の数が増加している。</p> <p>② 学期ごとのいじめアンケート 学期ごとにいじめアンケートを実施し、実施後すぐに、いじめ防止対策委員会にて結果を確認し、学校全体でいじめの早期発見早期対応を行った。</p> <p>2 遅刻指導、交通安全指導を重視し、自律性の育成を目指す。</p> <p>① 通年で遅刻指導、交通安全指導を実施 通年で遅刻指導を行った。月1回警察と協力しマナーアップキャンペーンを行い、交通安全指導を実施した。また、2学期末には警察の方に来校していただき交通安全教室を行った。交通事故は昨年の4件から3件と減少している。登下校時の自転車乗車マナーについて課題が残っている。</p> <p>3 全校体制で感染症対策に取り組む。</p> <p>① 保健厚生部中心に感染症対策年間指導計画 年間を通して手洗い、手指の消毒、食事の際の指導、換気など、基本的な感染症対策について、全職員で呼びかけた。保健委員会では、感染症対策についての放送や、文化祭で各団体へ感染症対策のパトロールを実施した。</p> <p>② 健康観察の徹底 リーバーを活用した健康観察を実施した。健康状態の確実な確認ができるよう、未入力者への入力勧奨をメールで促した。クラス内や部活動での感染症の広がりが確認し、対策ができた。</p>	<p>1 ① 入学して来る生徒の状況も年々変化しているということ鑑み、全職員が教育相談情報交換会に参加するよう働きかける。また、小型のケース会議を多く実施することにより、事例研究をとおして生徒対応に役立てる。欠席がちな生徒に対し、担任だけではなく支援の形を確立させる。</p> <p>1 ② 引き続き実施し、早期発見、早期対応に努める。</p> <p>2 ① 引き続き、遅刻指導、交通安全指導を続ける。</p> <p>3 ① 基本的な感染症対策はあらゆる感染症予防となるため、ガイドラインに則り、引き続き対策を徹底する。</p> <p>3 ② リーバーについて、自主的な入力習慣化するような働きかけを工夫する。</p>	<p>1 ① 入学してくる生徒の変化に応じた生徒指導や教育相談体制を整えていくことはとても重要。新制服についても、他校に負けない素敵な制服を期待する。</p> <p>1 ② いじめアンケート、各学期に1度の実施であるが、スパンが長くはないか。細かい事案を把握するためには、もう少し間隔が短い方が良いのではないか。</p> <p>2 ① 警察と連携しての指導はとても効果的である。今後も続けてほしい。</p> <p>3 ① ② 陽性者が確認されたときの一斉メールでの周知や注意喚起によって、感染予防に対する意識が高まっている。これからも続けてほしい。また、健康観察とリーバーへの入力についても同様。入力徹底を促すことは学校にとっても手間がかかることだが、今後もぜひ続けてほしい。</p>	<p>1 生徒の状況が年々変化していることを鑑み、組織的な生徒指導体制、教育相談体制、特別支援教育推進体制を維持する。生徒指導提要の改定に伴い、本校の生徒指導のあり方についても検討が必要。令和6年度入学制からの新制服の実現に向け、松戸六実高校の新しい魅力を発信できるよう取り組む。</p> <p>2 遅刻指導、交通安全指導は継続して実施する。生徒の自律性を高める生徒指導を目指す。特に交通安全指導は、警察と連携し更に改善するよう取り組む。</p> <p>3 生徒が自主的に健康観察するよう、今後もリーバーを活用して、学校全体の健康管理に対する意識を向上させる。</p>
キャリア教育	<p>1 生徒一人一人の自己実現のため進路指導の充実</p> <p>① 進路説明会 ② 進路ガイダンス 1年生・2年生は各2回、3年生は1回と各学年で進路ガイダンスを実施し、それぞれの段階で必要な情報の提供や生徒の希望状況の把握を進めた。また、増加傾向にある公務員志望者に対応するため、公務員ガイダンスや放課後の補習などを、年間を通して実施した。医療系への進学を希望する生徒には個別でガイダンスを実施し、集団面対策などの指導を行った。体育館の改修の伴い、進路行事が大きく制限される形となったが、放送やICT機器を活用してガイダンスや説明会を実施することができた。</p> <p>③ インターンシップ 新型コロナウイルスの影響で中止・規模縮小の流れが続いていたが、本年度は保育分野でのコロナ禍以前に近い形で実施ができた。夏休みの期間を活用し、近隣の保育園に御協力のもと、希望する生徒全員が保育実習に参加することができた。小学校のインターンについては来年度からの再開を目指し日程調整中である。</p> <p>④ ボランティア活動 ボランティア体験講座に9名の生徒が参加した。新型コロナウイルス感染症の状況により松戸特別支援学校へのボランティア活動は中止となった。</p>	<p>1 ① ② 進路選択の多様化が進み、個別化された指導が必要となる場面が多くなってきたことを鑑みて、ガイダンス等でも動画教材などのICT機器を活用した進路指導体制を構築していく必要がある。一人一台のパソコンを活用する流れが高等学校にも波及しているため、さらなる活用方法を模索したい。</p> <p>1 ③ コロナウイルスによる外部でのインターン中止が続いていたが、少しずつ以前の形でのインターンの実施ができるようになってきた。小学校でのインターンは本校の進路行事の中でも特徴的なものであったので、再開に向けて前向きに進めていきたい。</p> <p>1 ④ ボランティア活動への参加により、生徒の視野が広がり、キャリア教育にもつながっていく。JRC部の取組を継続し、コロナ禍でも実施できるようなボランティアの形を模索しながら、積極的な実践につなげたい。</p>	<p>1 ① ② 一人一台端末の高等学校への導入については、かなりの数の中学生の保護者が注目しており、大きな期待を寄せている。中学校の時よりもレベルダウンしないよう、教員自身のスキルアップをお願いしたい。高校生が当たり前に端末を使えるように、便利さや活用方法についても指導願いたい。</p> <p>1 ③ 松戸六実高校の特色ある進路行事を今後も継続してほしい。それが志願者増につながる。</p> <p>1 ④ コロナ前は近隣の高齢者との食事会等、地域交流が活発だった。これからも様々な方法を検討し、地域交流を絶やさないでほしい。</p>	<p>1 ガイダンスに積極的に ICT を活用し、生徒の実情に合ったより効果的な方法を検討する。保護者への進路関係の情報提供を積極的に、タイミングよく行う。自己理解を促し、生徒の進路に対する意識を高め、模擬試験や資格試験の効果的活用について改善を進める。</p> <p>インターンシップ、ボランティア活動は、生徒にとって幅広い見分を広げる場となり、また自己理解を深める機会ともなるため、方法等を工夫し、コロナ前の活動に近づけていく。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">特色ある教育活動</p>	<p>1 部活動を通じて主体性・自己肯定感を高める教育を実践する</p> <p>① あいさつや清掃活動</p> <p>生徒会、各部活動において、あいさつを励行している。清掃活動については、「校内清掃が行き届き整理整頓されている。」の肯定的回答が昨年度67.3%から67.2%へわずかに低下している。清掃活動を含めた環境整備については、今後も指導を継続していく必要がある。</p> <p>2 総合的な探究の時間を充実させ、生徒に自ら探究する力を身に付けさせる</p> <p>① 総合的な探究の時間の内容について実践及び検討</p> <p>昨年度、3か年を見通した総合的な探究の時間の指導計画を作成した。その計画に基づき、各学年がテーマに沿って探究の時間に取り組んだ。</p> <p>また、職員も「総合的な探究の時間の学習状況の評価の方法」をテーマに、千葉県総合教育センターより外部講師を招聘し研修を実施した。</p>	<p>1 ①あいさつや清掃活動を継続する。全生徒が、当たり前のこととしてあいさつができ、マナーを守り、校内の清掃活動ができるよう取り組む。</p> <p>長寿命化工事の実施により、校内が煩雑な環境にあるが環境整備の意識の向上を目指し指導を充実させる。</p> <p>2 ①今後も各学年の指導計画に基づき、系統立てた学習に取り組む。今年度の総括を確実にを行い、次年度の実施に反映させる。</p>	<p>1 ①地域との連携は松戸六実高校の良いところを知ってもらうためも必要。地域と連携することで「地域に見守っていただいている」と意識をするようになる。挨拶もきちんとできるようになると共に、マナーも良くなる。あいさつの励行、清掃活動については今後も継続してほしい。</p>	<p>1 長寿命化対策工事により校内の環境が乱れている傾向があるが、生徒の環境整備についての意識を一層高め、環境を整える。</p> <p>2 3か年を見通して探究学習の全体計画を実施した。年度ごとの評価を確実にを行い、次年度につなげる。</p>
---	---	--	--	--